

# ウィークリー・アウトック

## 米財務長官訪日、米中首脳会談、ウォーシュ議長誕生!?

### 【今週のポイント】

- ・ベッセント米財務長官が訪日、為替相場や日銀に言及するか
- ・米中首脳会談や中東情勢、“ウォーシュ FRB 議長”の言動にも要注意
- ・豪中銀は利上げのいったん停止を、メキシコ中銀は利下げ終了を示唆

4月27日の週は、日銀、FRB、ECB、BOE(英中銀)などの政策会合がありました。いずれも政策金利の据え置きを決定。日銀では利上げを主張した3人が反対、FRBでは3人が先行きの利下げバイアスに反対するなど、ややタカ派的な内容でした。足もとではインフレ圧力が高まっており、今後の原油価格の状況などによっては引き締め方向へのシフトがみられるかもしれません。

4月30日以降5月6日まで、本邦当局により複数回の米ドル売り円買いの為替介入が入った模様です。米ドル/円は4月30日の160円台から6日には一時155円ちょうど近辺まで下落しましたが、その後は反発して157円ちょうど近辺で推移しています(日本時間11日10:30現在)。7日には、三村財務官が引き続き投機の動きが見られると述べました。介入後の米ドル/円の下落分の半値戻し、すなわち158円近辺より上では追加介入の警戒が必要かもしれません。

### 今週の主要経済指標・イベント

			当社予想	市場予想	前回値
5月11日		ベッセント米財務長官が来日(13日まで)			
	15:00	【ノルウェー】CPI 前年比(4月)	3.6%	3.5%	3.6%
		【ノルウェー】CPI-ATE 前年比(4月)	3.2%	3.2%	3.0%
5月12日	21:30	【米】CPI 前年比(4月)	3.8%	3.7%	3.3%
		【米】CPIコア 前年比(4月)	2.8%	2.7%	2.6%
5月13日	21:30	【米】PPI 前年比(4月)	4.8%	4.8%	4.0%
		【米】PPIコア 前年比(4月)	4.3%	4.3%	3.8%
5月14日		【スウェーデン】【ノルウェー】祝日(キリスト昇天祭)			
		米中首脳会談(北京、15日まで)			
	15:00	【英】GDP速報値 前期比(1-3月期)	0.5%	0.6%	0.1%
	21:30	【米】小売売上高 前月比(4月)	0.3%	0.5%	1.7%
		【米】小売売上高(除自動車) 前月比(4月)	0.5%	0.7%	1.9%
5月15日		【米】パウエルFRB議長の任期満了(理事としての任期は28年1月まで)			
	21:30	【米】NY連銀製造業景気指数(5月)	6.0	7.5	11.0

市場予想はBloomberg、5月11日9:00現在。発表日時は日本時間。

---

トランプ大統領は日本時間 11 日朝、米国の提案に対するイランの回答を拒否しました。WTI 原油先物価格は 3.5 ドル程度上昇。市場はいったんリスクオフに傾きそうです(日経平均は約 500 円上げて寄り付いた後に上げを消しました)。今後、米国とイランの和平交渉に新たな展開はあるでしょうか。

今週は重要な外交日程があります。

11 日にはベッセント米財務長官が来日し、高市首相や片山財務相と会談する予定です。議題は、「円安」、レアアースなど経済安全保障、米中首脳会談前の日米調整などとみられます。日本の円安対策として、ベッセント財務長官が、為替介入ではなく、日銀による利上げを求める可能性もありそうです。

14 日にはトランプ米大統領が訪中し、習国家主席と会談する予定です。議題は、中東(イラン)情勢、関税、レアアース、台湾問題など多岐に渡りそう。大きな合意に至るというよりも、各問題に対するそれぞれの立場を確認するだけになるかもしれません。ただ、米国がイランとの和平に関して中国の働きかけを期待する可能性はあるでしょう。

15 日にパウエル米 FRB 議長の任期が満了し、ウォーシュ元 FRB 理事が後任になる見込みです。ウォーシュ氏の議長就任は上院本会議での承認待ちですが、4 月 29 日に上院銀行委員会で承認されており、本会議でも問題なさそうです。“ウォーシュ議長”がトランプ大統領の利下げ圧力にどう対応するか。市場が利下げを期待して好感するのか、それとも FRB の独立性侵害を危惧して市場金利が上昇するのか。すぐに結果は判明しないかもしれませんが、要注目でしょう。

8 日に発表された米国の 4 月雇用統計は、NFP(非農業部門雇用者数)が前月比 11.5 万人増と、2 カ月連続で 2 ケタの増加でした。NFP が 2 カ月連続で増加したのは約 1 年ぶり。今週の 4 月小売売上高は良好だった 3 月分から反動が出そうですが、それでも景気の持ち直しが確認できるかもしれません。また、4 月 CPI が大きく上振れするようであれば、利下げ観測が一段と後退、利上げ観測が浮上するかもしれません。〈西田〉

\*\*\*\*\*

今週はイラン情勢を注視する必要がありそうです。イラン国営メディアは 10 日、「イランが米国の提案に対する回答を仲介国のパキスタンに送った」と報道。トランプ米大統領は同日、「イランのいわゆる“代表者”からの回答を読んだ。気に入らない。全く受け入れられない」と自身の SNS に投稿しました。

米国とイランの戦闘終結への期待が後退するようなら、原油価格には上昇圧力が加わり、安全資産とされる米ドルは全般的に堅調に推移するとみられます。原油価格の上昇は、ノルウェークローネやカナダドル、メキシコペソなど産油国の通貨にとってプラスになると考えられます。

“米ドル高・円安”への本邦当局の対応にも引き続き注目です。市場は、本邦当局は 4 月 30 日に為替介入(米ドル売り・円買い介入)を実施し、その後も介入を行ったとみえています。仮に追加介入があれば、米ドル/円が大きく下落しそう。その場合には豪ドル/円や NZ ドル/円、カナダドル/円などは米ドル/円

---

の下落に引きずられるとみられます。〈八代〉

### 今週の注目通貨ペア①: 〈米ドル/円 予想レンジ: 155.000 円~160.500 円〉

4月30日以降の為替介入とみられる場面では、米ドル/円が下落するものの、すぐに小反発。「円売り」の需要が大きいことがうかがえます。中東情勢が緊迫化したり、原油価格が高騰したりすれば、米ドル/円に上昇圧力が加わっても不思議ではありません。そのケースで米ドル/円の上昇を阻むものは本邦当局による介入(ないしその警戒感)ぐらいでしょう。

一方、米ドル/円が155円からさらに下落するとすれば、米国とイランの和平交渉の進展、原油価格の大幅安、過熱気味の日米株価の急落、本邦当局による本腰を入れた為替介入などが材料となりそう。ただし、為替介入については、介入に批判的なベッセント財務長官が訪日するなかで実行するのは難しいかもしれません。〈西田〉

### 今週の注目通貨ペア②: 〈ノルウェークローネ/スウェーデンクローナ

予想レンジ: 0.97500S クローナ~1.25000S クローナ〉

ノルウェークローネ/スウェーデンクローナ(NOK/SEK)は5月に入ってパリティ(1.00000S クローナ)を超えてきました。ノルゲバンク(ノルウェー中銀)が7日の会合で0.25%の利上げ(政策金利を4.25%へ)を決定したことも材料になりました。ノルゲバンクは25年9月に0.25%の利下げを行った後、政策金利の据え置きを続けていました。利上げは23年12月以来。

同じ日にリクスバンク(スウェーデン中銀)は政策金利を1.75%に据え置きました。両国の政策金利差は2.50%となり、過去10年間で最大です。OIS(翌日物金利スワップ)に基づけば、市場はノルゲバンクが次回6月の会合で利上げする確率を5割強、8月までで約7割、9月までで1回プラス追加利上げを2割強織り込んでいます。一方、リクスバンクについて、市場は次回6月会合での利上げ確率を2割弱、8月までで5割強、9月までで1回プラス追加利上げを2割強織り込んでいます。それぞれの確率を勘案すれば、短期間であれ、政策金利差が一段と拡大する可能性があり、それはNOK/SEKの強気材料となりそうです。

ノルウェーが産油国であるため、NOK/SEKは原油価格の影響も受けます。中東情勢や原油価格の動向にも注意は必要でしょう。〈西田〉

### 今週の注目通貨ペア③: 〈豪ドル/NZドル 予想レンジ: 1.20500NZドル~1.22500NZドル〉

RBA(豪中銀)は5日の会合で0.25%の利上げを行うことを決定。政策金利を4.10%から4.35%へと引き上げました。RBAによる利上げは3会合連続で、今回の利上げによって政策金利は25年の利下げ開始前の水準に戻りました。

RBAのブロック総裁は会合後の会見で、「中東での戦争の行方を見守る余地がある」と述べ、「今回の利上げによって戦争に関連したインフレ(の上振れ)と経済成長の(下振れ)の両面のリスクを見極めることが可能になった」と語りました。RBAによる利上げはいったん停止される可能性があります。

---

OIS(翌日物金利スワップ)に基づけば、市場ではRBAは次々回8月の会合で0.25%の追加利上げを実施し、26年末までその水準を維持するとの見方が優勢です。

一方、同じくOISに基づくと、市場ではRBNZ(NZ中銀)は次々回7月の会合で0.25%の利上げを実施し、26年末までに合計1.00%(0.25%×4回)の利上げを行うとの見方が優勢です。RBAとRBNZの先行きの金融政策に関する市場の見方を踏まえれば、豪ドル/NZドルは軟調に推移する可能性があります。〈八代〉

#### 今週の注目通貨ペア④:〈メキシコペソ/円 予想レンジ:8.900円~9.300円〉

BOM(メキシコ中銀)は7日の会合で0.25%の利下げを行うことを決定。政策金利を6.75%から6.50%へと引き下げました。BOMによる利下げは2会合連続で、24年3月以降15回目です。

BOMは声明で「(今回の会合で)政策金利をさらに引き下げ、それをもって24年3月に開始した利下げサイクルを終了することが適切だと判断した」と説明。今後の金融政策運営については、「政策金利を(現行水準に)維持することが適切だと見込んでいる」とし、政策金利を当面据え置く方針を示しました。

BOMの政策金利は主要な中銀と比べてなお高い水準です。BOMが利下げサイクルの終了を示唆したことで、その状況は今後も維持されるとみられます。政策金利面からみれば、メキシコペソは底堅い展開になりそうです。

本邦当局による為替介入(米ドル売り・円買い介入)には注意が必要です。仮に追加の介入があれば、クロス円であるメキシコペソ/円は米ドル/円の下落に引きずられると考えられます。〈八代〉

## <執筆者>

### 執筆者プロフィール



#### 西田 明弘 (にしだ あきひろ)

チーフエコノミスト

日興リサーチセンター、米ブルッキングス研究所、三菱UFJモルガンスタンレー証券などを経て、2012年マネースクウェア・ジャパン（現マネースクエア）入社。

米国を中心とした各国のマクロ経済・金融政策・政治動向の分析に携わる。

「アナリスト、ストラテジスト、エコノミスト、研究員と呼び名は変われども、30年以上一貫してリサーチ業務を行ってきました。長い経験を通じて学んだことは、金融市場では何が起きても不思議ではないということ。その経験を少しでも皆さんと共有したいと思います。」

### 執筆者プロフィール



#### 八代 和也 (やしろ かずや)

シニアアナリスト

2001年ひまわり証券入社後、為替関連の市況ニュースの配信、レポートの執筆などFX業務に携わる。2011年、マネースクウェア・ジャパン（現マネースクエア）に入社。

豪ドル、NZドル、カナダドル、トルコリラ、南アフリカランド、メキシコペソを中心に分析し、レポート執筆のほか、M2TV出演、セミナー講師を務めている。

【プロフィール】 広島県出身。

【趣味】 野球・サッカー観戦。

【一言】 より分かりやすくタイムリーなレポートを心掛けています。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したのですが、当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

---

## 当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

---

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会  
株式会社マネースクエア

---